

サークル紹介

剣道部

歴史、発展、そして未来へ

文学部哲学科二年

橋元 純也

剣道競技の伝統に由来して、剣道部の歴史は古いが、決して平坦な道のりではなかった。終戦直後GHQによって禁止された剣道だが、戦前戦中に奨励されたそれは、本来の姿とは程遠く、極度に歪曲されたものであり、戦後真の武道精神を信奉する人々が復興に決起したのは当然であった。

広島大学でも昭和三二年に同好会から部に昇格し、愛好者の気運は盛り上がりを見せた。



青空道場時代に始まり、道場を獲得し、大学紛争時代を乗り切り、二回程の成長期を経て現在に至っている。

今春の合宿中に剣道部は、部発足当時から師範であった大森玄伯先生が御逝去されるという最大の衝撃を経験した。葬儀後の疲労と虚脱感は甚大だったが、多くのOBの協力と何より部員の自覚回復でいち早く立ち直り、その後の対外試合での好成績につなげた。現在部員は男子三八名女子七名の計四五名で、厳しくも活気のある稽古に打ち込んでいる。

仰ぎ続けた最高の師を失い、西条移転も伴って剣道部は今、創部三五年にして最大の転換期に直面している。しかし新たな世代による新たな飛翔は、重厚な歴史に裏付けされた力強いものになることは疑い得ない。

弓道部

一応体育会系である

法学部法学科二年

清水 基支

南グラウンドの片隅、春先には桜の花が満開となる弓道部、そこで我ら弓道部五十三名、男子のみで構成されるクラブとしてはやや大所帯ではあるが今日も仲よく弓を引いている。弓道とは日本古来より伝わる和弓を用い、



二十八メートル先のまとを射抜く武術であり、そのゆったりとした動作からわかるように、運動量は少なく、いかに体力が低下しようが、死ぬまで続けることのできる生涯スポーツである。ちなみに弓道部は一応体育会系である。そしてその活動は、週四回の練習を軸とし、中四国大会を始めとする学生弓道大会に参加し、勝利することを目標に日々修練を重ねているのである。弓道も他のスポーツ同様練習の積み重ねが大切であり、弓道場には朝から夜まで練習する部員の姿が絶えることはない。また、西条においてもまだ弓道場が建設されていないため、自分達の手で仮設道場を作り、もくもくと活動しているのである。

弓道という地味で、じじくさいことをしている我々であるが、他の体育会系クラブに負けないくらい熱くたぎっているのである。弓に興味を持ち、胸に熱いものを持つ方、大歓迎である。我々と一緒にたぎろうではないか。ちなみに一応体育会系である。